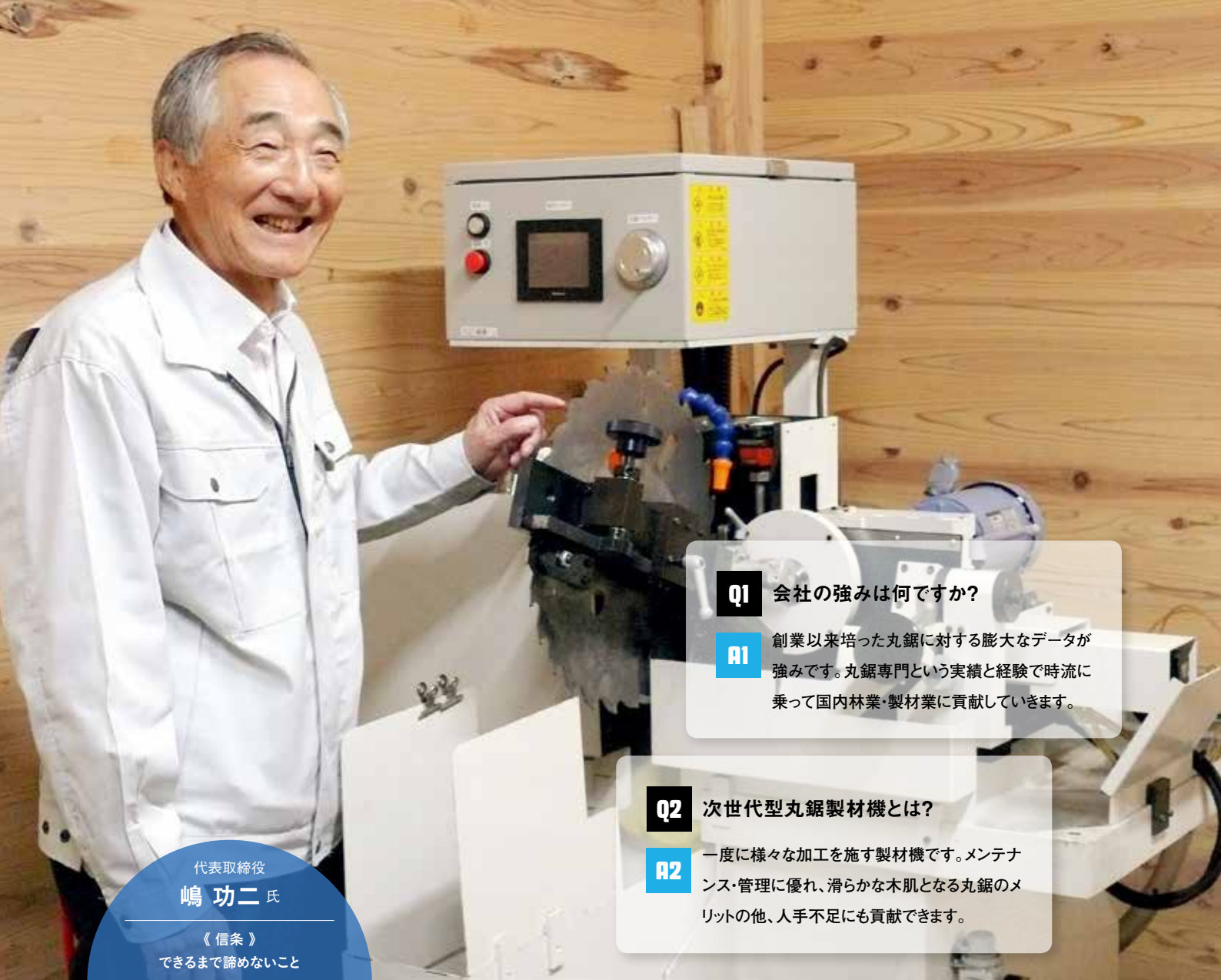




Q1 会社の強みは何ですか？

A1 創業以来培った丸鋸に対する膨大なデータが強みです。丸鋸専門という実績と経験で時流に乗って国内林業・製材業に貢献していきます。

Q2 次世代型丸鋸製材機とは？

A2 一度に様々な加工を施す製材機です。メンテナンス・管理に優れ、滑らかな木肌となる丸鋸のメリットの他、人手不足にも貢献できます。

代表取締役
嶋 功二 氏

《 信条 》
できるまで諦めないこと



創業以来培ってきた技術力
希少となった丸鋸専門会社

昭和47年（1972年）の創業以来、製材・木工機械の販売・メンテナンス、鋸刃の販売・調整・研磨を手掛けているのが仙台市若林区にある株式会社泰栄産業だ。製材機械用鋸には円板型鋸の丸鋸と帯状鋸の帯鋸があり、昭和の中頃までは丸鋸が主流であったが、その後、太い丸太にも対応できる帯鋸が普及し、現在はほとんどの製材機械が帯鋸となっている。そんな中、創業から丸鋸専門で事業を展開する同社は、貴重な存在となっている。

「近年、次世代型丸鋸製材機械が注目され普及しつつあります。丸鋸にこだわってきた当社に取っては大きなチャンスです」と代表取締役の嶋功二氏。

鋸刃の外注製作による課題
納期と利益率の改善を図る

FILE.12

活況を帯びる国内林業・製材業の力に

製材機械の鋸刃は木材の種類や機械の特性によって最適な仕様に合わせなければならず、これまでは顧客の機械に合った仕様の刃を、同社が蓄積してきたデータから設定し、刃物製造を外注していた。しかし、次世代型丸鋸製材機械の普及によって増える受注に対応するためには、社内製造が必要となっていた。

「外注に頼ることで利益率が下がることに加え、納期にも時間が掛かってしまいます。この課題解



決のために、新たな設備を導入することにしました」。

内製化による課題解決で
細やかなサービスも実現

今回の事業で導入したのが、自動高周波ろう付機、小径基盤腰測定機、腰入れプレス機、手動両側面研磨機。これらの設備導入により社内での刃物製造が可能となり、次世代型丸鋸製材機械の性能をさらに強化できる試作品鋸刃の開発に取り組んだ。社内製造なので何



度でもすぐに調整を施すことができ、試作開発を着実に進められる。また、これらの結果、さらに膨大なデータを集積することが可能となり、納期の大幅短縮と利益率向上を実現するだけでなく、顧客仕様に合った高品質な製品提供が可能となっている。

今後増えて行く木材需要と
丸鋸製材機械の進化に貢献

木材住宅の減少や安価な輸入木材の流入によって国内林業・製材業は長らく苦戦を強いられ、国内木材自給率は28パーセントにまで落ち込んでいる。しかし、平成21年（2009年）に国内木材自給率50パーセント以上を目指す『森林・林業再生プラン』が策定され、国内林業・



製材業の活性化が見られる。「近年では新たな建材となる木材を活用したCLTの普及などもあって業界全体が上向きです。この時流に乗ってさらなる顧客開拓に注力したいと思います」。



株式会社泰栄産業

代表取締役 / 嶋 功二

所在地 / 宮城県仙台市若林区鶴代町1-50-3

T E L / 022-284-5351

【25年度補正】
次世代型丸鋸製材機械の
顧客仕様に合せた刃物の試作開発

事業テーマ